

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成19年7月10日

施設名	高知県立牧野植物園	所管課室	自然共生課
-----	-----------	------	-------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県立牧野記念財団	指定期間	平成18年4月1日～平成23年3月31日
施設所在地	高知市五台山4200-6		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・植物園の設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務 ・植物園の利用の許可、撮影の許可、許可の取消し等に関する業務 ・植物園の利用料金の收受、減免、還付その他の利用料金の徴収に関する業務 ・植物園の施設、設備等の維持管理に関する業務 <p>『牧野富太郎博士の偉業を顕彰し、植物研究を通じて、教育文化の向上及び産業振興に寄与するとともに、土佐寒蘭の保護及び知識の普及を図り、県民に対し、憩いの場を提供するため』 (高知県立牧野植物園の設置及び管理に関する条例第1条)</p>		
施設内容	<p>面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><植物園面積> 約17.8ha(うち5.6haを利用に供用)、駐車場(普通車100台、バス10台) <主要施設> 牧野富太郎記念館(本館、展示館)、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、学習館、長江圃場、レストラン、ショップ、カフェなど <開園時間> 午前9時～午後5時 <休園日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 入園料/一般500円(高校生以下無料)、団体400円(20名以上)、年間入園券2,000円、高知県長寿手帳保持者等は無料 施設利用料(1時間当たり)/映像ホール1,400～1,800円、アトリエ実習室500～600円など 撮影料/業として行う写真の撮影:撮影者1人当たり日額1,800円、業として行う映画の撮影:撮影機1台当たり1時間3,600円</p>		
職員体制	常勤職員: 24人 非常勤職員: 36人 合計: 60人		

2 収支の状況

単位:千円

		17年度(決算)	18年度(決算)	19年度(予算)
収入	県支出金	276,192	253,836	258,724
	使用料・手数料	31,973	37,809	33,823
	その他	1,457		
	収入計 (a)	277,649	291,645	292,547
支出	活用事業費	21,645	14,901	16,600
	管理運営費	104,374	111,978	115,059
	人件費	151,630	145,315	160,888
	その他			
	支出計 (b)	277,649	272,194	292,547

平成17年度は利用料金制移行前のため、使用料・手数料は県歳入。

3 利用状況

	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(目標)
年間利用者数(単位:人)	118,957	128,331	130,000
利用者意見等の反映	利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) ・一般の来園者については、窓口や各展示会場にアンケートボックスやノートを置いてあるほか、講演会やイベント・講習会の際にもアンケートを行い、利用者ニーズの把握に努めている。 ・頂いたご意見やアンケート結果については、広報担当者が集計し、全職員にメール等で周知、改善しながら要望に応えている。		
	その他 ・園内が分かりにくいという来園者のご指摘を受けて、園内順路や植物の場所を分かりやすく示した新しいリーフレットを作成したり、カラー刷りの案内表示を新設したほか、職員が園内順路や見頃の花の咲いている場所を説明するなど、利用者の利便性の向上に努めている。 ・特に高齢の来園者からの要望に応えるため、MY遊バスの停留所を本館入口前にも設置している。 ・一般の方から多く寄せられる植物に関するご質問には、時間帯を決めて栽培技術課等の専門職員が対応している。 ・苦情として最も多い駐車場については、18年度からは、専門の警備会社に委託することにより、お客様がスムーズに駐車場を利用できるようにしている。 ・特別展・企画展に関しては、過去のアンケート調査を基に、「こんな花がみたい」などの意向反映を図り、四季折々の“植物文化”の展示に努めている。		
その他特記事項	平成18年度の年間入園者数は前年度比7.9%の増加、当初目標人数の113,000人を大きく上回ったほか、利用料金収入(入園料、施設使用料、撮影料等)についても37,896千円と、当初目標の32,754千円を15.7%上回るなど、植物園の利用促進について高い成果を上げている。		

4 平成18年度業務評価

項 目	状 況 説 明
適正な管理運営の確保	法令順守、利用料金の徴収に関する業務、施設の利用及び撮影の許可に関する業務、施設管理、危機管理体制の確立、情報管理などについて、公の施設として適正な管理運営が行われていると認められる。
広報・展示、普及教育業務等	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌(紙)等の作成・配布のほか、報道機関・情報雑誌等を活用し、植物園の情報提供、広報、広告を効果的に行っている。 ・牧野博士や植物に関わる特別展・企画展、各種イベントは、いずれも魅力的な内容となっているほか、展示方法にも工夫が見られ、来園者の好評を得ている。 ・植物教室や体験教室をはじめ、植物園を児童生徒の総合学習の場として活用するなど、一般～子どもまで幅広い年齢層に対して充実した普及教育活動を行っている。 ・これらの活動を入園者数の増加に結び付けることに成功しており、高く評価できる。
植物研究、植物管理、高知県植物誌の編纂	<ul style="list-style-type: none"> ・園内での研究をはじめ、海外での調査や、大学・県の研究機関・企業等との共同研究等に精力的に取り組んでおり、研究型植物園としての機能強化が進んでいる。 ・植栽や新たな園路敷設などの園地改良のほか、長江園場における植物の栽培・保存増殖作業など、植物管理についても熱心な取り組みが続けられている。 ・高知県植物誌の編纂業務については、ボランティア等とも連携しながら、計画を上回る標本の確保や同定作業が進んでおり、平成19年度の執筆作業に期待が出来る。
収支の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金収入の増加のほか、研究部門における外部資金の導入など収入増加に向けた取り組みに加え、経費節減の努力をした結果、確実に成果が上がっている。 ・今後は、この収入増をより有効に活用していくことが必要と思われる。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・植物研究、植物管理、広報・展示、普及教育、施設管理など、多岐にわたる植物園業務の各分野において精力的な取り組みを行っており、高く評価できる。 ・これらの成果は、職員全員の努力によるものであり、限られた人員の中での経営努力については、なお高い評価に値する。 ・その反面、現在の人員体制でモチベーションを維持し、成果を持続していくことには相当な努力が必要と考えられる。職員それぞれの専門性、努力、成果などの適切な評価、職員にかかる負担への配慮、園内の案内や植物の解説についてのボランティアの活用・連携、といった取り組みを続けていく必要があると思われる。

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの